

不正咬合学実習

Training of Malocclusal Study Practice

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 歯科矯正学
- ③ 不正咬合
- ④ 近赤外線分光法
- ⑤ 機能的磁気共鳴画像法

授業概要

本実習では、歯の再生医療についての体系的な知識を教授し歯の凍結保存や歯根膜再生の実習を行う。具体的には(1)歯の移植、歯の再生医療、歯の凍結保存について実習に必要な知識を講義する。(2)歯根膜再生における生化学的な実験手法について実習を行う。(3)歯の移植についての実験手法においての実習を行う。(4)歯の凍結保存についての実験手法においての実習を行う。(5)歯の再生医療における様々な実験手法を論文にて学び理解を深める。以上の実習により不正咬合の診断治療において最新の研究方法論を身につけることを目標とする。

授業科目の学修目標

不正咬合学は歯科全体において重要な学問であり、高齢化が進み健康寿命の延伸が叫ばれている今日において、不正咬合の治療と予防は極めて重要なテーマとなってきている。実習を通じて必要な知識・態度・技能を体系的かつ包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 不正咬合に関連する問題点について学習 10コマ
近年の文献等を用いて不正咬合によって起こりうる種々の問題点についての基本を教授する。
- ② 近赤外線分光法実習 25コマ
近赤外線分光法装置を用いて不正咬合状態時の脳活動部位について調べる基本的手技を教授する。
- ③ 機能的磁気共鳴画像法実習 25コマ
機能的磁気共鳴画像法を用いて不正咬合状態時の脳活動部位について調べる基本的手技を教授する。

実習担当教員 山口徹太郎 三宅真次郎 大塚剛郎 小泉創

教科書および参考書

NIRS-基礎と臨床、新興医学出版社、酒谷薫（監修）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実験プロトコルを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 不正咬合に伴う様々な機能的問題を理解しその原因を予想することができる。
- ② 近赤外線分光法装置を用いて不正咬合状態時の脳活動計測を実践することができる。
- ③ 機能的磁気共鳴画像法を用いて不正咬合状態時の脳活動計測を実践することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	40%	0%	0%	20%	40%	0%

評価の要点

- ・口頭試問は、授業計画で行った知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の2項目（②，③）について課題を提出する。20%×2回=40%
- ・実技は、授業計画の2項目（②，③）についてプロダクト達成度を判定する。20%×2回=40%

理想的な達成レベルの目安

不正咬合学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。